

電子複写不可

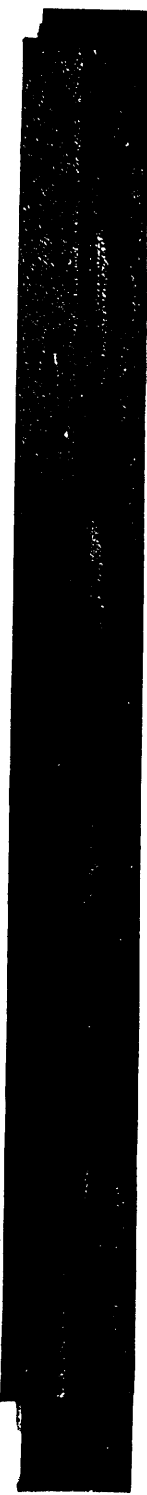
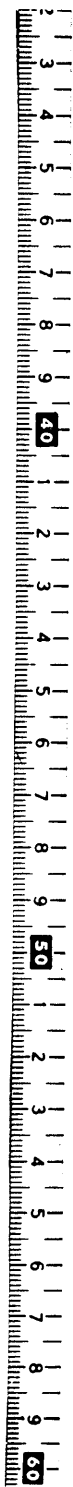


独立混成第十五聯隊陣中自誌

昭和元二二一〇元二二三。



防衛研修所戦史部



自昭和十九年二月一日  
至昭和十九年十二月三十一日

# 陣中日誌

獨立混成第五聯隊本部

21939

Jan 11 1957

RS 89253  
CinCPac-CinCPoa  
B-1 23474  
OKINAWA 25 Jun



昭和十九年十月一日

晴

沖繩縣田頭那本部町渡久地

一内村海軍中尉 海軍砲障地偵察ノ為來隊 石井少尉屋比久原方面ヲ案内ス

二通信班主力ニ依リ聯隊本部——大嵐間重補成工事完成 感度良好

三宮里集積中ノ糧秣(精米)旅團ヨリ受領 十月十日空襲以來地方運搬能力ノ底下ニ依リ作業進捗セズ

四兵器委員、内當伊野波間ノ厚葉ノ運搬ヲ繼續 五軍需本日ヨリ開設ス 汁粉 カツレット等販賣ス

六電報送受信數 五

獨立混成第四旅團命令

二二二二二 名 謀

獨逸兵隊第九號

一旅團ハ作并隊ヲシテ主陣地ヲ二樓廓内ノ作并ヲ實施セシメントス

二野戰作并第三十中隊ハ速カニ伊江島ヲ撤シ本部半島ノ

陸軍

湯名南側地區ニ移動シ主トシテ樓廓内ノ作井ニ任スヘシ  
海上輸送ニ関シテハ在渡久地曉部隊ト協定スヘシ  
三、作井位置及其ノ他ノ細部ニ関シテハ高級部員ヲシテ  
指示セシム

旅團長 鈴木少將

下連法 印刷交付

配布先 練指揮下一般 曉部隊  
報通(報)先 五三軍 曉沖繩支部

獨立混成第四旅團命令

第一一、一二、一三、一四、一五、一六、一七、一八、一九、二〇、二一、二二、二三、二四、二五、二六、二七、二八、二九、三〇、三一、三二、三三、三四、三五、三六、三七、三八、三九、四〇、四一、四二、四三、四四、四五、四六、四七、四八、四九、五〇、五一、五二、五三、五四、五五、五六、五七、五八、五九、六〇、六一、六二、六三、六四、六五、六六、六七、六八、六九、七〇、七一、七二、七三、七四、七五、七六、七七、七八、七九、八〇、八一、八二、八三、八四、八五、八六、八七、八八、八九、九〇、九一、九二、九三、九四、九五、九六、九七、九八、九九、一〇〇

一、旅團ハ球作命令第一六五號ニ基キ橋梁用材ヲ伏採之  
ヲ輸送ニ便アル港灣附近ニ集積シ各々道路構築兼担  
仕兵團ニ交付セントス  
二、團頭地區隊長ハ前項用材伏採搬出ノ爲テ七月七日以降  
將校ニ下士官以下約百名ヲ差出シ松下大尉ノ指揮ヲ

受ケシムヘシ

二、松下大尉ハ前項兵力及地方住民ヲ併セ指揮シ、源河  
吳我、世富慶沿岸附近ニ短期間ニ之カ伏採集積ヲ實  
施シ各兵團ニ交付スヘシ

四、細部ハ高級部員ヲシテ指示セシム

旅團長 鈴木少將

下連法 印刷交付

配布先 練指揮下一般

報通(報)先 三三軍 沖繩兵站地區隊 曉沖繩支部

軍兵務部 軍經理部

昭和九年十一月二日

陸軍

蛋

一 通信艇主カヲ以テ瑞隊枝那陣地内敷斗指揮所——第二天  
隊本部間ノ重構成工事開始

渡久地

二 第一無限乱敷表作製開始

三 九四式五號無線器修理

四 大嵐ニ設備中ノ鍛工場順調ニ進行中

下達命令

獨立混成第五聯隊日日命令

渡久地ニ

獨逸軍令第九四號

一本職明三日演習見學ノ爲一泊ノ予定ヲ以テ山部隊ニ出  
張入

一

陸軍大村

志村敏一郎

明三日副官會同出席ノ爲即日歸隊ノ予定ヲ以テ名護町  
球第一八八。部隊ニ出張ヲ命ス

美田

以下略



復讐作命令ニ就

ヲ原所屬ニ復讐セシムヘシ

那霸到着後ノ行動ニ関シテハ軍々医部長ノ指示ニヨルヘシ  
三名獲—那霸間ノ輸送ハ兵站自動車之ヲ担任ス

旅團長 鈴木少將

下達法 電話後印刷交付

配布先 隷指揮下一般

報告通報先 二二軍 二四師 軍々医部 兵站

五十飛行場大隊 二八師 沖病

獨立混成第四旅團命令 二二、三三、三三〇

一 球作命令第一七四號ニヨリ第二十七野戦防疫給水部一部  
ヲ原所屬ニ復讐セシムル

二 貨物廠長深井戸用水ポンプニ個ヲ伊江島用トシテ旅團  
ニ交付ス

三 伊江島地區隊長ハ前項ノ部隊ヲ原所屬ニ復讐セシムヘシ

陸軍

三 深井戸用水ポンプハ受領後速カニ新設井戸ニ備付クヘシ

四 野戦作井第二十中隊ハ伊江島ニ於ケル深井戸用水ポンプ  
ノ備付ニ関シテ所掌ニ意シ其作業ヲ援助スヘシ

五 海上輸送ニ関シテハ曉部隊ト協定スヘシ

旅團長 鈴木少將

下達法 要旨電話後印刷交付

配布先 隷指揮下

報告(通報)先 三二軍 防給 貨物廠 曉部隊

陸田

寫

表彰狀

陸軍兵長勲等 建石五郎

行動公誠ニ軍人ノ範タリ

仍テ茲ニ明治節ノ佳辰ニ當リ之ヲ表彰ス

昭和十九年十一月三日

獨立混成第十五聯隊長陸軍大佐從五位  
勲三等 美田千賀藏



表彰狀

陸軍兵長勲二等 建石 五郎

右ハ資性誠實責任觀念極メテ熾盛ニシテ服務確實積極的ニシテ上官ノ信望最モ厚シ

昭和十九年九月二十五日當時聯隊ハ主力ヲ以テ伊江島ノ飛行場設定作業ニ從事中兵長ハ糧秣ノ前送補給ニ任アリシカ糧秣ヲ満載セル機帆船伊江島ニ到着シ之カ揚陸ヲ實施セントヘルモ波浪激シノ棧橋ニ繫船ガ許サズ沖合ニ投擲スルノ止ムナキニ到ル兵長ハ棧橋ニアリテ此ノ現狀ヲ見ルヤ附屬小舟ニ依ル積替揚陸ヲ決行スルニ非サレハ任務ノ完遂不可能ナルヲ悟リ再三再四凡ユル方法ヲ以テ之ヲ本船

ニ連絡セシメ船員ハ危険ニシテ一隻ノ小舟ヲモナシ糧秣ヲ前送スルハ秋然身ヲ挺シテ波浪ノ海中ニ跳ビ込ミ波浪ノ間ヲテ救十分遂ニ本船ニ到リ尻込ハ船員ヲ叱咤激勵シテ附屬小舟ヲ以テスル積替揚陸作業ノ決行ヲ促シ自ラ陣頭ニ立テ之ヲ指揮シ遂ニ揚陸作業ヲ完遂セリ

セバ波浪高クシテ海ヲ住居トスル船員スラモ躊躇スル此ノ危険ナル作業ヲ敢然トシテ決行セル熾烈ナル責任觀念ト疊浪ノ中ニ身ヲ挺シ任務完遂セル敢闘精神トハ共ニ遺憾ナク軍人ノ精神ヲ發揮セシモノニシテ其ノ勇敢機勇行動ハ誠ニ軍人ノ範タリ

仍テ茲ニ明治節ノ佳辰ニ當リ之ヲ表彰ス

昭和十九年十一月三日  
獨立混成第一聯隊長 陸軍大佐 從五位 美田 千賀藏

昭和十九年十月四日

一、一〇。ヨリ駐屯地會報實施

晴 二、前渡金十万円受領

渡 久地 三、名護農會ヨリ 黒糖貯下駄心受領

四、球第一八八。部隊通信班へ水晶片(二四五、一八八三)受領  
信田線表作製、爲提出

五、部隊長「D」號演習見學ヨリ歸隊

(空)

陸軍

週番將校服務割

11月 7日~11日	坂口 准尉
11日~18日	石井 少尉
18日~25日	柴田 中尉
25日~ <sup>12月</sup> 2日	藤本 中尉
<sup>12月</sup> 2日~9日	吉川 中尉
9日~16日	石井 少尉
16日~23日	柴田 中尉
23日~30日	藤本 中尉

1. 週番將校ハ露營日直  
將校ニ準テ服務ス  
2. 交替ハ12.00トス

陸軍

昭和十九年十月廿

渡久地

一。通信班ノ主力ヲ以テ聯隊本部一。球兵站線復線ヲ單  
線ニ變更ス

ヲ偵察ス

三。一三。西澤大尉 藤本中尉内當榎榎陣地ノ工事  
狀況視察ス

四。一八。部隊副官事務連絡ノ爲ニ右ノ予定ヲ以テ  
那霸市軍司令部ニ出張

五。二三四。警戒警報發令  
別紙

下達命令

獨立混成隊第六五號  
獨立混成隊第六六號  
獨立混成隊第六七號

獨立混成隊第一五聯隊日日命令

陸軍技術准尉

坂口順市

渡久地

自十月四日 陸軍技術准尉 坂口順市  
至十月十一日 間 週番將校服務ス

送

十月二十六日日命七八號別紙命令週番時校服務制ハ之ヲ削除ス

獨混五作命第五號

北地也隊命令

二五二三〇〇  
渡久地

南軍通報ニ依ルニ五廿六。五航空母艦二戰艦  
一艦艇約四。敵機動部隊ニラ東方ヲ北上中ニ  
シテ六日早曉沖繩南方約ニ。料附近ニ達スル  
距離ニアリテ警戒ヲ要アリ

二地也隊一部ヲ以テ防空警戒ヲ嚴ナシムルト共ニ明拂  
機時ニ於ケル防空戦斗ヲ準備セントス

三本部及第線兩大隊ハ防空警戒ヲ至嚴ナシムルト  
共ニ明拂機時對空戦斗ヲ準備スベシ

四在本部部隊ハ衛兵三隊兵力ヲ増強シ渡久地  
西ノ高地ニ対空監視及対空射撃部隊ヲ配  
置スベシ

爾余ノ諸隊ハ資材ヲ潤滑ニ分散スル共ニ應急ノ  
態勢ヲ以テ夜ヲ徹スベシ

五予ハ本部國民學校ニ在リ

北地区隊長 美田大佐

下達法 要旨傳ハ後印刷交付

既布先 各守備隊

報告通報先 各地區隊

陸軍

昭和九年十月六日

時 渡久地

- 一。九。四。澤大尉 築城協力者ニ関スル件連絡ノ  
為名護町動員署ニ出張
- 空襲以陣築城協力者ノ出勤程度ニ思フ
- 二。二。警戒警報解除  
民間側ニ比シ約ニ、分警報傳達遲ル
- 警報傳達速度ハ一般ニ底ク不良アリ
- 三。第一大隊長未隊
- 四。旅團松井中尉連絡ノ為未隊
- 五。一四。坂口技術准尉謝花沖ニ於テ不發彈處理  
焼夷彈三一 五。炸爆彈一 海中投棄
- 六。十月中電報發着信景况調査ス

左記ノ如シ

部隊名	發信數	着信數
第三軍司令部	一六	一

下 達 命 令  
 獨立混成第一五梯隊日日命令  
 第五司令第九七號  
 拔 萃

第四梯隊	一七	二九
第一大隊	／	／
第二大隊	二二	二二
第三大隊	八	九
大 嵐	一	一
合 計	六四	五一

獨立混成第一五梯隊日日命令

陸軍大尉 志村敬一郎  
 陸軍兵長 建石 五郎

右事務連絡並物資受領、爲本六日二泊、予定ヲ以テ軍司令部及那霸市ニ出張ヲ命ス  
 三、週番將校別紙、通服務スヘシ  
 四、陸軍大尉 岡 澤 實  
 右事務連絡、爲本七日即日隊手定、以テ名護町出張ヲ命ス

陸 軍

昭和九年十月七日  
 時 晴  
 渡 久 地

一。五。野崎大尉 古川中尉 鈴木中尉 村上少尉  
 「」號演習見學、爲第六二師團ニ出張  
 二。部隊長 岡澤大尉 石井少尉 帶同内當方面偵察

三。軍、指示ニ基キ軍隊ト住民ノ混住ヲ十月十日マテニ解消スベク作命下達

四。一五。第一大隊副官水野少尉 第二大隊副官山下中尉 聯隊砲中隊長杉浦中尉 速射砲中隊長代理佐藤少尉 工兵中隊長代理藤本少尉ヲ部隊本部ニ集合セシメ本部ヨリ岡澤大尉 柳主計大尉 藤本中尉出席 部隊長石作命ニ基ク指示ノ後 柳主計大尉 資料關係ヲ説明 各官ヨリ意見開陳アリ別紙資料蒐集計畫ヲ立案

五。旅團ヨリ糧秣受領  
 六。通信月報提出

七 電報受信ニ 發信ナシ  
 八 急造担架材料購入  
 九 一七、一八 號演習見學者歸隊

下達命令

獨逸軍第六號

獨逸五作命第五號

北地区隊命令

二七〇〇  
 渡久地



一 軍六隊住民下軍隊上渡居ヲ嚴禁シ十月十日迄之ヲ清掃ヲ期ス  
 二 北地区隊軍方針其基ヲ未ルナリ迄ニ現ニ地方住民下渡居ニル部隊ヲ藁屋幕舎等ニ轉居セシメ下ス  
 三 本部各隊自現作業ヲ實施スル傍一部ノ兵カラテ陣地附近ニ速ニ三角舎藁屋幕舎等ヲ構築シ十月十日迄ニ轉居スベシ  
 右ニ要スル材料ハ各隊毎ニ現地ニ於テ蒐集スルヲ本旨トスルニテ材料ハ逐次交付ス  
 四 高級主計ハ三角舎藁屋幕舎等構築ニ要スル諸材料蒐集交付スベシ  
 荷馬車一〇ヲ取極ス



五 住居材料蒐集交付書本部各隊明日〇九〇〇迄左記負責  
本部差出三柳主計大尉指揮受付シヨシ

本部(含大隊本部)

下士官各一

各中隊(含獨立中隊)

兵各一

六 渡地製材所使用之園三六隊團工兵隊協定シヨシ  
七 工兵隊長本部及各隊兵舍構築爲一部兵力ヲ以テ  
地方大工ヲ指導セシムル  
八 予本部國兵學校ニ在リ

北地区隊長 美田大佐

下達法 要旨ヲ傳後印刷交付

配布先 各隊

報告通報先 各地區隊旅團支隊砲兵隊兵站支隊  
船二六聯隊作井隊防給班 燒修理班

三 兩兵舎茅屋建築資材蒐集計画 五二〇

一 業務介世区分

下士官

兵

製材工場監督支

與田中長

四

資材集積

資材蒐集計画

谷口伊長

一

事務

資材茅草藁其他  
現場監督指前

鈴木昇曹

六

二 建築用木材所要量

下士官 三

兵 二

三、材料費の算定と実施要領

5 經

木材陶器

山現存之ノ

謝花

崎本部

〃

寸 一寸五分  
 寸 一寸五分  
 寸 一寸五分

三〇〇 卷

1. 板  
 2. 柱  
 3. 釘  
 4. 瓦葺

一〇〇〇 本  
 一〇〇〇 本  
 一〇〇〇 本  
 一〇〇〇 本

約 一〇〇 石 板材及柱材  
 〃 一〇〇 石 板材  
 約 一〇〇 石 板材  
 一米五

牛蒡石  
 吳志堅  
 嘉津中

約 五〇 本 柱材  
 約 八〇 石 板材  
 約 三〇 石 柱及板材

(1) 在り不足量ハ森林組合ヨリ急便ニ供  
 出セラルトス

2. 茅葺屋根ハ所設場ニ申請供出セラルトス  
 二池大車務所ニ七圍絡ニ協力セラルトス

3. 釘ハ根田久平經理部ニ申請文件ヲ受  
 ケラルトス

製材事業生産計画

一、製材着手予定

十月十日より着手予定約一月半

三、終了予定

二、製材能力

一月

約一五石

三、製材の、交付材料

潤滑油

約二升

木炭

約六俵

石潤滑油、旅田々、軍ヨリ交付ヲ受ケレモ、土木炭ハ、当地農業組合ヨリ供給セシム。

昭和十九年十月八日 一。八。〇。 詔書奉讀式舉行

渡久地

晴

二一三。四澤大尉、茶田中尉、石井少尉、坂口准尉、

隊本部ノ位置決定ノ為大嵐方面ヲ偵察

三、三角兵舎構築用資材、蒐集班編成完了、直ニ活動開始

四、糧食系統變更ニ伴ヒ所管換、為「陸軍機密書類」

行日録」ヲ旅團ニ提出

五、名護線ノ補修實施

美

六、電話ニ依ル情報聴取ニ関スル教育實施

昭和十九年十月九日

晴後雨

浪 久 地

一 通信班主力大嵐民家撤收

二 九。寺邑衛士部見習士官平山隊陣地衛生伏撃

視察

三 石井少尉電報班三角兵舎位置置込ノ為大嵐方面

偵察

四 一。二。部隊長岡澤大尉帶同第二大隊方面地形偵

察

五 一。二。坂口技術准尉新里海岸ニ漂着セル円形機雷

處理ノ為所要ノ兵力ヲ以テ同海岸ニ到ルモ波浪激

シフテ目的ヲ達セス「危険表示」ヲ為シテ歸隊

別紙

下 達 命 令

獨立混成第六七號

獨混五日命令第

九八號草案

獨立混成第一五聯隊日日命令

陸軍少尉

石井英久

浪 久 地

明日副官會同出席ノ爲即日帰隊ノ予定ヲ以テ名  
護町球第一八八。部隊ニ出席ニ命ズ

獨混五作命第六七號

北地區隊命令

二九、三〇、  
渡久地

一軍ハ米軍ニ對スル戦技教育ヲ實施ス

二地區隊ハ右ノ普及及教育ヲ實施シ以テ

部隊戦力ノ充實ヲ期セントス

三小野寺中尉ハ別紙ニ基キ普及教育ヲ

計畫實施スベシ

四各大隊ハ小野寺中尉ノ連絡ニ基キ所要ノ

實兵及演習資材ヲ準備スベシ

北地區隊長 美田大佐

下達法 要旨ヲ傳ヘ後印刷交付  
紙布先 各隊  
報告通報先 各地區隊

獨逸五作命第六七號別紙

一專修員 將校及勤務支障者下士官全員

二實施日時及部隊

十月十一日一三〇 伊江島地區隊  
十月十四日一四〇 第一大隊及部隊本部  
十月十四日一四〇 第二大隊

小野寺中尉ハ教育實施前日一三〇迄ニ教育計  
畫ヲ立案シ予以下ニ提出スベシ

所要ノ印刷物ハ部隊本部ニ於テ準備ス

「に號演習見學ニ基ク普及教育計画

球第七八三大部隊  
船一九一〇一〇一〇

目的

軍ノ實施セル「に號演習見學ニ基キ對米必勝ノ戰技ヲ部隊内一般  
幹部ニ普及徹底ニ部下教育訓練ノタメ必要ナル資料ヲ獲  
得セシムルニ在リ

實施要領

學科

(自一三〇〇  
至一四三〇〇)

術科

(自一五〇〇〇  
至一六〇〇〇)

一 大本營田中參謀講演要旨

1. ベリリウ島ノ戰訓ニ就テ

イ 戰斗經過ノ概要

ロ 敵戰斗法ノ觀察

休息 (一五分)

二 大本營田中參謀講演要旨

イ 米軍上陸作戰ノ一般概況

イ 水際戰斗

2 米軍ノ戰斗遂行ヲ不可能ナラシムル  
ルタメノ手段ハ何カ

3 地上戰斗ノ主敵ハ何カ

4 地上戰斗遂行上ノ留意点

5 戰訓ニ基ク戰法ノ反省

6 對米戰斗法ト命令範ニ就テ

ク 夜間攻速實施上ノ着眼

一 資兵教育ニ必要ナル左記人員兵器其他資材ハ各大隊ニ於テ準備ス  
ルモノトス

人員 一ヶ分隊 兵器 〇一〇一 一 鐵條鉄二

資材 一〇米綱 一 割竹 約一〇本(長サ約七煙直徑約五―六煙)

鐵條網(長サ約一〇米分)設置準備

服裝 單裝ニテ背囊ヲ除キ鐵帽被甲偽裝網携行

二 實施ノ日時及專習員ハ獨混一五炸命第六七號ニ據ル





美田

配賦先  
報急通報先

22A 園頭駐屯各部隊  
9D  
24D  
62D 其他部隊

昭和十九年二月十日

風雨

渡久地

一。九。柳主計大尉野菜類取得之園スル協議會出席  
ノ為旅團司令部ニ出席

二。駐屯地會報實施

三。女子青年團放護班要員教育實施

四。急造担架作製繼續

五。大嵐——聯隊本部間斷線

下達命令

機務作令第六八號

美田

陸

軍

獨混五作命第六八號

北地區隊命令

一、二、三

一、旅團別冊、探察、部隊防衛担任地域内ニ於ケル軍  
重要施設警防實施要領ヲ以テ秘匿地域ノ警防  
ヲ強化ス

二、地區隊ハ右ニ基キ担任秘匿地域ノ警防ヲ強化セントス

三、第一、第二大隊ハ左記要領ヨリ秘匿地域ノ警防ニ任ス  
ハシ

左記

秘匿地域ノ標示、及警防區域ノ境界、制札樹立時期  
別表第一、如シ

各部隊ハ十一月二十日以前降担任區域内ニ毎日一回以上動哨

下士官若シハ上等兵ヲ長トシ兵一名ヲ付スルヲ派遣シ居住許可証ヲ發入許可証ヲ携行セサルモノ及拳銃不審者ヲ取締任セシム

巡察將校ニ對シテハ(一週概ネ二回ヲ基準トシ)時期及地區ヲ明示シ巡察ニ任セシムルモ其ノ他ノ場合ニ於テモ巡察區域内ノ警防ニ関シ萬遺憾ナキヲ期セシム

一般工事援助者ハ各、班ヲ編成シ指揮者ヲ付シ團體トシテ、秘匿地域内ニ出入スル如ク指導ス

工事援助者ト雖モ單獨行動ヲ許サズ  
非違者ヲ認メ特ニ不審ノ慮アル者ハ之ヲ部隊本部ニ運入スルモノトス

四、岡澤大尉及山下中尉ハ居住許可証、立入許可証發行ノ件ニ関シ町役場ト協議、上十一月十九日迄ニ之カ發行手續ヲ完了スヘシ

五、立入禁止ノ爲メ制札ハ本部ニ於テ準備ス  
之カ受領、爲明十二日一三〇〇西大隊ヨリ各、兵一名ヲ本部ニ差出スヘシ

六、予ハ部隊本部ニ在リ

北地區隊長 美田大佐

下達法 要旨ヲ傳、後印同交付

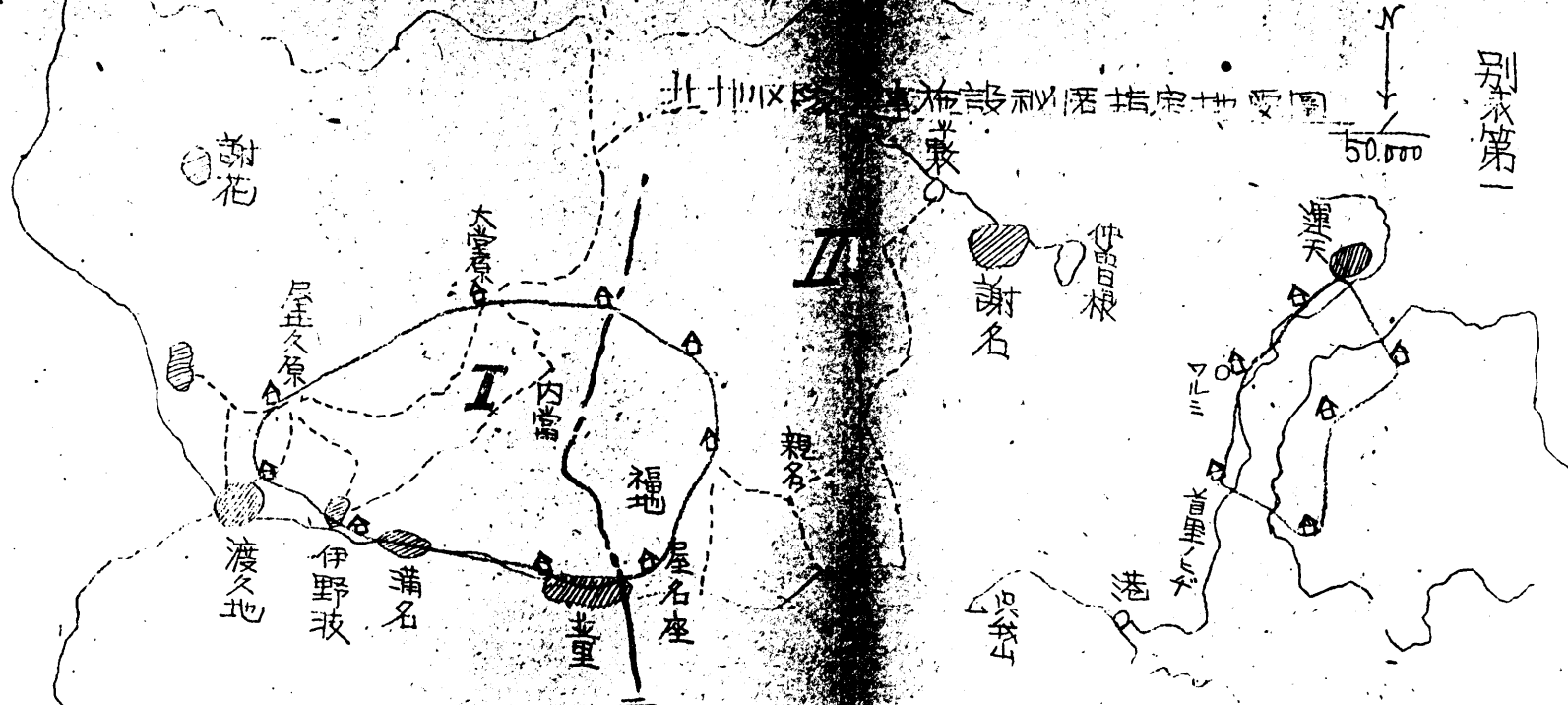
配布先 各隊  
報告通報先 各地區隊 旅團工兵 旅團砲兵 兵站本部

船舶工兵第六聯隊 野戰作井第三中隊 曉修理班

別表第一

北地区隊 施設利用指席地要圖

50.000



一、警戒区域ノ境界ハ  
南大隊ノ戦斗地境  
トス

一、立入禁止ノ制札樹立ノ  
時期ハ十月十九日正午  
トシ各大隊ニ於テ樹  
立シ樹立個所ノ詳細  
ヲ本部ニ報告スルニ

五、I 共ニ六ノ

昭和十九年五月十日

一女子青年團救護班要員教育ヲ續行  
一伊江島ト有線連絡ハ依然不通

渡久地

美田

陸軍

昭和九年十月十三日

晴 渡久地

一陸 軍

一。九。〇部隊長石井少尉帶同空襲・依ル樞災者  
見舞ノ為本部町役場ニ出向

二。一。二。〇部隊長秋枝教育指導ノ為第一大隊へ出張  
副官以下本部諸官專習員トシテ参加ス

米軍戦法ニ對スル認識ヲ深刻ナラシメタルト共ニ戰  
技訓練ニ資スル所アリ

三。高級軍医内當大嵐方面衛生狀況視察  
四。各隊電話機ノ一齊手入ヲ實施

(美田)

昭和九年十月十四日

陸軍

晴

渡久地

受領

獨逸軍司令部宛

一。八。部隊副官聯隊復部陣地附近ヲ偵察  
二。第二次無限乱敷表作製開始

獨立混成第四旅團命令

二。四。一五。

一。特設警備第二五中隊ハ予ノ指揮ニ復級セシメラル  
二。特設警備第三五中隊ハ戰鬥司令所及ヒ自動車掩  
体ノ補備増強ニ仕スヘシ  
三。細部ハ高級部員ヲシテ指示セシム

旅團長 鈴木少將

下達法 印刷交付

配賦先 225 15015 44A 44P

報告先 22A

下達命令

獨立混成第一五聯隊日日命令 渡久地

獨逸軍司令部宛

一。別紙計畫ニ基キ十月十六日、十七日、兩日地區隊對砲

(美田)

爆施設及物資集積情況ヲ巡視ス

陸軍大尉 岡澤 實

右明十五日勞務主任會議出席ノ爲即日歸隊ノ予定  
ヲ以テ名護町球第一八八。部隊ニ出張ヲ命ズ

以下略

昭和十九年十月十五日

陸軍

時 面偵察

渡久地

一。八。ヨリ部隊長石井少尉帶同終日内當方  
二。八。エ。岡澤大尉勞務主任會議出席ノ爲  
名護旅團司令部ニ出張

三。一。二。ヨリ町田軍医中尉本部下士官共全員  
對シ衛生救急法止血法教育實施

四。聯隊本部大嵐間有線掛換實施

獨立混成第四旅團命令

一。二。五。ニ。名護

受領

獨逸軍機密

一。新ニ海軍砲ニ門ヲ旅團ニ増加セラル

二。旅團ハ前項海軍砲ヲ屋比久原北側附近ニ配備シ伊  
江島ノ確保ヲ強化セントス

三。赤島隊ハ其ノ海軍砲ヲ以テ屋比久原北側附近ニ最

モ堅固ニ陣地ヲ占領シ伊江島飛行場ヲ射撃シ得ル如

ク準備スヘシ





射程上已ム得サル場合ニ於テモ伊江城山南齋北海  
面ヲ射撃スルヲ要ス

屋比久砲隊ト呼稱ス

陣地完成ノ時期ハ上月未トス

四、北地區隊長ハ前項砲隊ヲ掩護スル如ク屋比久原

附近ノ前進陣地ヲ強化スヘシ

又其ノ隊所屬工兵ヲ以テ該砲隊ノ進入路竝ニ陣地

構築ヲ援助セシムヘシ

五、早山大尉ハ第二項陣地構築ノ指導ニ任スヘシ

六、旅團通信隊長ハ屋比久砲隊ト旅團司令部間ノ連

絡ニ任スヘシ

七、細部ニ関シテハ高級部員ヲシテ指示セシム

旅團長

鈴木少將

下達法 印刷交付

陸 軍

配賦先 線指揮下一般

報告通報先 二二軍 海軍根據地隊

左運天海軍部隊

昭和九年十月六日

渡久地

一。八。部隊長因澤大尉 柳主計大尉 杉浦中尉  
坂口夜術准尉 帶岡列紙 計畫 基ヲ對砲臺施設及  
物資集積狀況巡視

二。藤本中尉 事務連絡ノ爲軍司令部及沖繩縣廳ニ出  
張

三。衛生材料 伊野渡ヨリ大嶽ニ移動  
四。電報班 月報 硬出

五。化學戰器材 中波服衛主材料 移管トアルモ整理  
獨立混成第四旅團命令 一、一六、一七、

受領  
獨逸機務第七六現

一。敵ハ其ノ機動艦隊ヲ以テバウオ耶島方面ニ於テ又其ノ  
基地航空部隊ヲ以テ支那基地ヨリ夫々出動準備中  
アルモノ、如ク近ク南西諸島ヲ攻撃スルノ算アリ  
當分ノ間 毎日。六三〇。一。九。〇。ニ至ル間 丙號 數掃  
ヲ令セラル

陸軍

- 一 旅團ハ對空戰備ヲ強化セントス
- 二 各部隊ハ一。一。ノ戰訓及屢次ニ亙ル訓示及注意ニ基キ之カ異現徹底ニ些ノ缺陷アルヲ許サス
- 三 對空射臺ハ嚴ニ濫射ヲ戒メ確實アル必墜ヲ期スヘシ持。速射砲及聯隊砲ハ射方向ヲ限定シ且極力其ノ位置ヲ秘匿掩蔽スヘシ
- 四 人員ノ掩護ニ関シテハ歩哨及微備者ニ至ル迄所帯ノ設備ヲ行ヒ又天幕及仮小屋ノ分散適敵偽裝ニ徹スヘシ
- 五 兵器彈藥糧秣其ノ他軍需品ノ掩護分散適蔽ニ関シテハ之カ萬全ヲ期スヘシ
- 六 自勤及馬匹ノ掩護ヲ確實ニシ且分散適蔽ニ注意スヘシ
- 七 各部隊長ハ前諸項ノ實行ヲ嚴ニ監督スヘシ

陸軍

獨逸警備命令八號

- 持。敵ノ奇襲ニ備ヘツ、常ニ計畫的検査ヲ勵行シ其ノ結果ヲ報告スヘシ
- 旅團長 鈴木少將
- 下違法 要旨電話右印刷交付
- 配賦先 練指揮下一般
- 報告(通報)先 ニニ單
- 獨立混成第四旅團命令 二、一六、一七、頁
- 一 軍ハ持設警備中隊ノ召集ヲ解除ス
- 二 持設警備第二五中隊長ハ十一月十七日十五時警備召集右ノ召集ヲ解除スヘシ
- 旅團長 鈴木少將
- 下違法 口達右印刷交付
- 配賦先 練指揮下一般
- 報告先 三ニ單

下達命令  
獨混五日命令第一  
一、二號板草

獨混五作命令第六九號

獨立混成第一五聯隊日日命令

陸軍入尉

志村敬一郎

渡久地

右明十七日副官會同出席ノ爲即日帰隊ノ予定ヲ以テ  
球第一八八。部隊ニ出張ヲ命ス  
別紙

獨混五作命令第六九號

北地區隊命令

二一六二〇〇

機動艦隊ヲ以テパオ群島方面ニ於テ亦  
基地航空部隊ヲ以テ支那基地ヨリ夫々出  
發準備中ナルモノノ如ク近ク南西諸島ヲ攻撃  
シルノ算アリ  
丙號戰備ヲ令セラル

聯隊ハ戰鬥計畫書ニ基ク對空戰備ヲ強化セン

八十月十日ノ戰訓ニ累次ニ亘ル訓示注意  
ヲ圖リ些ノ缺陷ヲカラシムベシ  
八戰鬥計畫書ニ基キ必墜ヲ期スベシ

特ニ速射砲隊砲ハ射向ヲ限定シ極力其ノ  
位置ヲ秘匿掩蔽スベシ  
人員ノ掩護ニ於テハ對空監視哨及勤務奉仕  
作業隊モ空襲時ニ於ケル所要ノ掩護設備ヲ行  
フト共ニ陣地附近ノ假兵舎ノ偽裝遮蔽ニ徹ス  
ベシ

大兵器彈藥糧秣其ノ他資材ハ努メテ本陣地内ノ  
洞窟内ニ分散格納スベシ  
洞窟雨水等ノ爲防濕上適當ナラザルモノハ洞  
窟附近ニ一時分散遮蔽空襲時洞窟内ニ格納  
シ万全ヲ期スベシ

自動車ハ常時偽裝スル 他空襲時渡久地東方

谷地掩体ニ馬匹ハ屋敷久原南方各地附近ニ馬  
匹掩体ヲ構築シ空襲時分散遮蔽スベシ

各隊長ハ敵ノ奇襲ニ對シ兵器彈藥糧秣其ノ他  
軍需品掩護ノ万全ヲ期スル爲常時検査ヲ勵行  
スベシ

八子ハ本部國民學校ニ在リ

北地區隊長 美田大佐

下達法 要旨ヲ傳ヘ後印刷交付

配布先 各隊

報告通報先

449Bs 各地ニ一隊